

2011年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2012年3月18日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 土橋 誠
飯能市柳町 23-8
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所 (株)シャローム印刷

新年合同礼拝

越谷教会 豊川 昭夫



二〇一二年
一月九日(月)
祝、聖学院教
会(聖学院大学
チャペル)を
会場として、二

〇一二年埼玉地区新年合同礼拝が行
われました。

明子先生でした。なお柳下先生は、前
北川辺伝道所の柳下仁牧師の娘さん
です。



柳下先生は、ヨハネの手紙Ⅰ第二章

今年、二年に一度開催される一
区・二区・三区が合同で行う礼拝で
した。二〇〇六年までは、この合同礼
拝は、大宮教会や埼玉新生教会、また
上尾合同教会等、地区内では比較
大きな礼拝堂を有する教会で行われ
てきました。しかし、それでも三〇〇
名近く集まる合同礼拝は、礼拝堂だ
けでは入りきれず、礼拝堂と集會室
等二つ以上の部屋に分かれて行われ
てきました。しかし、聖学院教会(聖
学院大学チャペル)が完成してから
は二〇〇八年、二〇一〇年そして今
年二〇一二年と三回連続、聖学院教
会で一室に集まって礼拝を捧げるこ
とが出来ました。また今回は、聖学院
大学・聖学院教会のご配慮によりス
クールバスで送迎もして頂けまし
た。参加者も地区内五十二、地区外
六、合計五十八教会・伝道所より二
百八十名の方が参加されました。

説教者は、武蔵野緑教会牧師であ
り日本聖書神学校教授でもある柳下

七、八節をもとに、昨年の大震災を
経験して、現在私たちの計画がいか
に脆く、未来を見据えることの出来
ない中であって、私たちの力は弱く
人生は空しいものなのか、と信仰が
問われている。しかし、互いに愛し合
いなさいという古くて又新しい掟を
通して、私たちは日々新たにされて、
今与えられている人生を力強く歩む
ことが出来る幸いをお話して下さい
ました。

聖餐式は、坂戸いずみ教会の山岡
創牧師と上尾使徒教会の松本のぞみ
牧師が務めました。山岡牧師の司式

の言葉は、改めて聖餐式の意味を深
く理解でき、また未受洗者への丁寧
な配慮もされており、感動深い聖餐
式でした。

礼拝後に、今年成人式を迎えた方
に対しての祝福の祈りが埼玉地区副
委員長の中村眞牧師によってなされ
ました。今年は、一人の姉妹が多く
人の前で祝福の祈りを受けました。
一人の姉妹とは実は、私の長女なの
です。中村牧師の長女に対してのお
話と「神様が前から、後ろから、上か
ら、下から、あなたを守り共にいて下
さいますように」と言う祝福の祈り
は、私の心の琴線に触れて、「二十年
間、本当に神様と人々に愛されてき
たなあ」と思い、思わず目頭が熱く
なりました。

礼拝後は、場所を隣の緑聖ホール
に移して楽しい交わりのひと時がも
たれました。聖学院教会の皆様によ
って美味しいお汁粉やお菓子等を
頂きました。聖学院教会の方々には、
大変お世話になりました。

今年もまた地区の一年の始まりを、
このような地区の一致と連帯の象徴
とも言えるべく
豊かな礼拝と
交わりを持つ
てスタート出
来ましたこと
を深く感謝致
します。
(地区委員)



日本で二
番目に乗車
運賃が高い
埼玉高速鉄道沿線の話の第二

弾。地下鉄がやがて開通し、都
心へ出るのに便利なベッドタ
ウンになる、というキャッチフ
レーズで旧鳩ヶ谷市の各地で
分譲住宅の販売がなされてか
ら三十年。その宣伝を信じて三
十年前に住宅を購入し、一番働
き盛りの日々を、バスと電車を
乗り継いで今か今かと待つて
過ごしたが、地下鉄が開通した
のは自分の定年退職後、と嘆い
ている人がいた。

この話、見方によっては、こ
の人の人生の計画が狂った、と
映るかもしれない。しかし、見
方によっては、約束を信じてそ
の約束の実現を今か今かと待
ちながら、日々の務めを忠実に
なし、人生の最後には、次の世
代に財産を譲りわたすことが
できたのだ、と受け取ることが
できる。

ちょうど、モーセとその同世
代の人たちは約束の地を目前
にしながらか約束の地に入るこ
とはできなかったが、ヨシユア
と第二世代の人々にバトン
を渡すことができたように。：信
仰の歩みとは、そういうことか
と思わされている。
(田中)

新任教師紹介

はじめまして

深谷教会 法元 聖親



谷教会の副牧師として着任いたしました法元聖親(ぼうがまさみ)と申します。

深谷は、私の故郷で四十年ぶりの帰郷です。また深谷教会は、祖父菊地猶之助牧師が建てた教会で母教会でもあります。従兄の主任牧師保母光彦先生にお任せしつつ、深谷教会の牧会に当たる所存です。

教団の教職としてのキャリアは、北海教会、九州教会、東京教会、西東京教会の各教会に仕えて合計三十五年になります。しかし関東教会のことはもちろん埼玉地区のことはほとんど分かりません。埼玉地区の皆様、ご指導とお交わりの程をよろしくお願い致します。



接手おめでとつございます

接手を受けて

越谷教会 棚橋千恵美



伝道師として遣わされてから、正教師になり、聖礼典を執行することが目標でした。昨年の十二月第一主日に、はじめての聖餐式の執行を任せていただきました。

最初から最後まで緊張しっぱなしでした。ある役員の方の感想です。「間違いはしないかと心配で、こんなに真剣に聖餐の言葉を聞いたことはなかった。」拙い者を忍耐し折り支えて下さっていた教会の方々に心から感謝しています。ガウン(背が低いので特注でした)を着た姿が「鎧」を付けているように思えて、笑われるのではないかと心配でした。礼拝後、「おかしくない。似合っている」と言われ「：良かった!」。欠けだらけ、失敗だらけの者に接手が許されました。「しっかりと立つことが出来るように、神の武具を身に着けなさい」(エフェソ書六章十三節)。御言葉に砕かれて、主の召しに、主の憐みと恵みに応えて行く者でありたいと思います。

接手を受けて

大宮教会 高田 輝樹



大宮教会にて伝道師として三年間を過ごすごことができたのはとても大きな喜びであった。しかし、平日は教団事務局で大車輪の労働に明け暮れていたため、大宮教会での伝道師としての役割は殆ど果たせなかった。申し訳ないと思っている。

この度、正教師の接手を受け、今月で大宮教会での任期は切れる事となった。大宮教会での働きの中で一番好きだったのは、言わずもがな説教である。幼稚園児から大人まで、皆熱心に耳を傾けて下さり、感謝している。

説教の決め手は聖霊の臨在だろう。普段から祈りと御言葉の実践を心がけたのは、偏えにそれを得るためだった。正田牧師ご夫妻は毎日の早朝祈禱会で祈って下さった。祈りに支えられ幸せな日々だった。接手を受けられたのは、大宮教会の祈りに応えられた神様の恵みに他ならない。全てを心から感謝している。

報告

青年の集い報告

坂戸いずみ教会 野澤 幸宏

まずは、日本中が震災後の大変な状況の中にあつた二〇一一年度に、私たちはこうして無事に予定通りの全三回の青年の集いを行えた事を、神様に感謝します。

一月二十九日、年度最後の青年部の会は、坂戸いずみ教会を会場にお鍋を囲み、交わりのひと時をもちました。ちよつとした頭の体操になるレクリエーションで心と頭をほぐし、お鍋の調理に入りましたが、今回は売っている出来合いの鍋の素などを使用せず、山岡牧師指示の下、「男の料理」の大胆な味付けで楽しみながら作らせていただきました。

交わりの後、次年度執行部を決め、今後の活動に向けて展望などを話し合い、最後に坂戸いずみ教会の夕礼拝とドッキングするかたちで礼拝を守り、山岡牧師を通して御言葉の説教を頂きました。

今回もまた残念ながら参加者数は少なかつたのですが、県外に就職したためしばらく青年部から遠ざかつていた青年の久々の参加もあり、和気あい

あいとしたアットホームな交わりでありました。

二〇一二年度も継続して活動していきますが、若者の少ない教会が多い中、同世代と交わりをもてる貴重な機会です。地区内の青年たちに、もっともつと参加して頂ければ幸いです。次年度はそのためにも、青年の集いの開催期日や方法、修養会のあり方などさらに検討していくつもりです。ぜひ、地区の各教会からも、青年をお送り下さい。ご協力をお願いします。(青年部委員長)



三区合同教師会報告

和戸教会 三羽 善次

最寄り三つの区の合同教師会は、毎年各区が持ち回りで担当していますが、今年は三区の和戸教会を会場に一月二十四日に持たれました。前夜、関東一円に雪が降り積り、当日の朝は道路も電車のダイヤも乱れてしまい、このため出席予定者の中で七名が欠席され、残念でした。出席者は、二十六教会、伝道所、集会所より二十九名でした。

今回の合同教師会では、松山與志雄先生より「キリスト教礼拝史から学ぶ」と題する講演をしていただきました。松山先生は長らくキリスト教礼拝学、教会音楽を専門として来られました(隠退教師として、上尾合同教会でオルガンの奉仕をされています)。また先生はエキユメニカル協会の理事長として、さまざまな教派がどのようにして信仰の一致が出来るかを研究・模索しておられます。

講演は、冒頭に「受容」という言葉の神学的意味について説明されました。相手を受け入れることで、人と人の違いの中で一致を見出すように、様々な教派間の信仰理解や教義の違

いを議論するのではなく、まず礼拝によって共にひとつの主

をあげることから始める事が「目に見える教会の一致」にとって大事だと語られました。そういう点でもプロテスタ

ントとカトリックが、何より礼拝で読まれる聖書の翻訳を共同でなして、「新共同訳聖書」によって、共同の礼拝が出来るようになったことの意義は大きかったのです。

礼拝刷新が、固定化した教会の在り方を変えて行く力となる事を、講演を通して改めて教えられました。

講演会の後、昼食を共にし、教師一人ひとり、それぞれの近況を、話して頂きました。教師間の交わりはそれぞれの最寄り区の隔月の教師会で持たれています。合同の会で各教師とその教会の状況や課題を語るときを十分取れることができ感謝でした。(教師委員会)

CS教師研修会

飯能教会 五十嵐実季

一月二十一日(土) CS教師研修会を大宮教会に於いて開催しました。この日、電車のダイヤの乱れにより出席できなかった方々もありましたが、二十一教会五十五名の参加者

が与えられ感謝でした。

開会礼拝では川中委員長の説教を聴き、「鏡の前に立ち自分自身に、『君が好きです』と言えるのは、イエス様が共にいてくださることを確信しているから言えるのだ。」と語ってくださいました。

講師の朴憲郁教授に「CS教師の心得と説教」という内容で講演をして頂きました。



心得として大切なことは、一方通行や詰込み型のやり方では意味がなく、子どもの「なぜ」という疑問に答え、対話することです。教師として、次世代を担う子どもに対する責任を自覚すると共に、自分が用いられ切ることです。

キリストの体である教会は、教会で育む子どもへの信仰を考へ、また、キリストの体への招

きと参加が大切です。大人の礼拝と合同して「子どもと共に守る礼拝」を積極的に行うことや、聖礼典に立ち合うことも意味あることです。



説教について大切なことは、主観的に語るのではなく、御言葉を語ることです。子どもに対して、話しかけるように告げ、ストーリーと結びつけることも大切なことです。

教師は、与えられた御言葉を自分の言葉で説明していくことが求められます。子どもに合った言葉使い、表現、短い文章で語るためにも、注解書等を読み、理解を深める必要があります。

大切なことを沢山学びました。各教会の子ども礼拝が豊かになることを願います。

(教育委員会)

信教の自由と平和を求める

二・一一集会報告

川口教会 本間 一秀

今年の「信教の自由と平和を求める二・一一集会」は、「キリストはわれらの希望」と題して関田寛雄先生(神奈川教区巡回教師)を講師に迎え、大宮教会で開催した。

先生はまず「東日本大震災のことを抜きにしてはキリスト教会としての今日的発言はあり得ない」と、東日本大震災後、被災地訪問され、支援活動に励む牧師、教会、地域の方々の姿を目にした時、「共に呻き共に苦しむ」のみ言葉と共に、「ここに主の教会がある」と実感された、講演の冒頭で話された。そして、「真の平和」とは何か、痛みを負う者、差別され、疎外された者が平安を取り戻した時に、「真の平和」が、与えられるものではないかという事を実感し、「キリストはわれらの希望」であり、主に在る平安を宣べ伝えて行きたいと語られ、「小さな群れよ恐れるな」と励まされた集會であった。出席三十三教会百三名。(社会委員会)

*講演詳細は、「埼玉の夜明け」をご参照ください。

特集

久喜復活集会所

山野 裕子



久喜市は人口十五万六千人。JR宇都宮線と東武伊勢崎線の久喜駅から徒歩二五分、車で久喜ICから五分の位置です。気を付けて見れば、県道三号線から、屋根に光る十字架が見えます。久喜北小学校裏門側の住宅地にあり、遊歩道と公園に隣接しています。

昨年二月に、土地と建物を末息子名義で購入。四月から主日礼拝(平均出席4・五人)と祈禱会(平均二・五人)、九月から聖書を学ぶ会(平均二人)を継続しています。四月にイエスターエッグを近所に配り、十二月はチラシ五千枚を配布。クリスマス礼拝は十一人。祝会で、

新来会者を含め全員で聖誕劇をしました。月定献金者五名。各地の神の家族からの祈りと献金と便りと訪問等に支えられ、感謝しています。

「久喜復活教会」の看板とグラス十二個分の聖餐用具は、福祉作業所「ワークスみぎわ」の木工製品。十人想定椅子・スリッパ・食器類。聖書と讃美歌・絵本と紙芝居・ヒムプレヤー等、少しずつ備えました。図書は亡夫の蔵書で十分だが微増。リードオルガンは、日立教会から頂く。次は洗礼盤と週報棚かな。献品歓迎。週報の様式が定まりました。

御言葉を正しく宣べる備え、台所を含め室内を礼拝の場に相應しく整える備えに努めています。集会所独自の活動は少ないので、地区・教会・教団等の集會に参加して、主に在る交わりと学びとを求めています。私たちの今の祈りは、復活のキ



リストに日々生かされる事、久喜市在住の信徒と求道者を主が招かれ、親教会を示され、日本基督教団久喜復活伝道所を開設する事です。

以前、仙台・いわき・福島の地で過ごしました。被災した友、特に障がいのある友を覚えて、共生と支援も課題です。開拓伝道は主が始められた御業です。十年後に「久しく喜びある復活の主の教会」の群れが、独自の土地と建物の取得を目指せまうように。主の祝福を求めつつ。(無任所教師)



北鴻巣集会所

岡村 紀子

当集会所はJR高崎線の北鴻巣駅の前にある集合住宅の一室です。高崎線沿線で日本基督教団の教会が存在しないのは、北鴻巣駅周辺だけです。

この地域は二十数年前から拓けた住宅地です。その周辺は田園地帯です。最寄の教会である鴻巣教会、行田教会は約十キロ離れています。他のキリスト教の教会はありません。創価学会とエホバの証人の活動が盛んです。伝道の妨害をされるこ

ともあります。私は開拓伝道をしたという希望を何年も前から持っていました。正教師になって一年過ぎた頃、「自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(ルカ九・二十三)の御言葉が繰り返し聞こえてきました。そして申命記

の御言葉で決心し、この地、この場所が与えられ開拓伝道を始めました。それは、今から五年足らず前です。主はこの小さな群れを常に支えてくださり、共にいてくださり、私たちは、すべて主にお任せし、従うだけです。

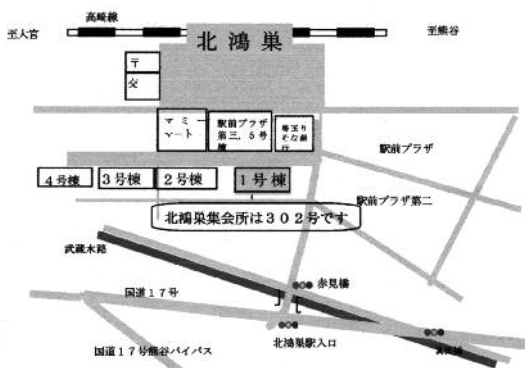
主日礼拝(日曜)、週日礼拝(木曜)、二箇所の家庭集會をしています。周辺地域にトラクトや「こころの友」を配布しています。一回目の配布は終わりましたが二回目の配布に入りました。毎週五十部配布しています。教会に來られない人には、「こころの友」と御言葉の文書伝道(約二十名)をしています。

現在九名の求道者がいます。が礼拝出席は三名未満です。けれども、礼拝出席者のいない日もあり、落ち込みます。俯き嘆いている私に、その時間があつたら福音を語りなさいと主は

言われます。見えるところの現実は厳しいですが、主を信頼し、希望を持って福音を語り続けます。

「あなたは命を得、かつ増える。あなたの神、主は、あなたが入って行って得る土地で、あなたを祝福される。」(申命記三十・十六)と主は約束してくださいました。

住所 鴻巣市赤見台一十三パークシティ鴻巣駅前プラザ第三団地一三〇二一
電話 〇四八―五九七―〇八五八



地区委員会報告

編集後記

●二〇一一年度第五回委員会
日時 十二月二十二日(火)
会場 埼玉新生教会
出席 十一名

【主な報告・協議事項】

◇委員長報告

①地区内の教会・教師の報告

・深谷教会 法元聖親牧師就任式 都築英夫委員出席
十一月十三日

・関東教区秋季按手礼式 高田輝樹教師(大宮)・棚橋千恵美教師(越谷) 受按 十一月二十六日

②委員長活動報告

・関東教区常置委員会 十一月八日

・関東教区「東日本大震災」被災支援委員会 十月二十八日

◇新年合同礼拝(三区合同・地区委員会主催)開催の件
案内作成と発送、当日の受付・会場案内担当、プログラム作成の作業日について相談、決定した。

◇伝道所・集会所との懇談会の件

十一月二十二日(火)、地区委員会に先立って持たれた懇談を踏まえ、以下のことを決

定した。
集会所へは、地区内教会・伝道所と同じように、地区通信・地区月報、また各委員会各部からの集案案内を送る。今後とも一年に一度、懇談会を開催する。

◇クリスマスプレゼントの件

地区内の十二教会十三名、隠退教師十二名、計二十五名に総額四十万円をプレゼントすることとした。

◇地区伝道協力金申請の件

坂戸いずみ教会より十一月二十三日のチャペルコンサート開催にあたり、予算総額十五万円の内、五万円の協力金申請があり、これを承認、地区伝道会計から支出することとした。

●二〇一一年度第六回委員会

日時 一月二十日(火)
会場 埼玉新生教会
出席 十名(欠席一名)

【主な報告・協議事項】

◇委員長活動報告

・関東教区「東日本大震災」被災支援委員会 十一月二十五日、一月十六日・十七日

◇新年合同礼拝(三区合同)の反省と申し送りの件

・地区内五十二教会、地区外六

教会より計二八〇名が参加、席上献金二一九、六三二円が献げられた。

・会場教会の人手が足りないため、駅と会場、駐車場の案内者を依頼することを申し合わせた。

◇第四十一回埼玉地区教会全体修養会の件

開催について協議の上、以下を決定した。

・開催日 二〇一三年八月五日(月)～七日(水)

・会場 軽井沢南ヶ丘倶楽部

◇東日本大震災被災者支援衣料の件

飯能教会に残されている約一トンの衣料は、NPO法人等へ無償で引き渡すこととした。

◇京畿中部老会との交流の件

地震のため先方からの訪問が一年延期され、今年の五月七日から十日に来日予定。埼玉地区が担当であったが、今回は被災教会を中心に訪問することが教区で決定された。

◇「地区総会」に関する件

・開会礼拝の説教を篠原愛義牧師(鴻巣)、司式を長尾愛子委員に依頼する。

・開票委員奉仕者(八～十名)は、大宮教会と埼玉新生教会に依頼する。

・議員登録葉書を発送する。締切は二月十五日とする。

・各委員会各部報告は二月十五日までに書記にメール添付のファイルで送付する。書式は従来通り。

・議案報告書は三月十日までに到着するように発送。

●二〇一一年度第七回委員会

日時 二月十七日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十名(欠席一名)

【主な報告・協議事項】

◇委員長活動報告

・関東教区常置委員会 二月七日

・関東教区「東日本大震災」被災支援委員会 二月七日

◇「地区総会」に関する件

・報告、決算・予算、議案、推薦議員の登録、その他について協議・決定した。

◇「災害対応要綱」の件

委員会作成の「埼玉地区災害対応要綱」を検討し、字句訂正の上、承認。二〇一二年地区総会議案・報告書に掲載することとした。

今年の新年合同礼拝は、久しぶりに成人者の出席があり、うれしい新年の歩みを踏み出すことが出来ました。柳下明子牧師は、古くて新しい「互いに愛し合う」掟の、今この時点の大事をとお話くださいました。

法元聖親牧師が深谷教会に就任され、棚橋千恵美教師と高田輝樹教師が按手を受けられました。

「特集」では、久喜復活集会所と北鴻巣集会所を、各々開拓伝道に励んでおられる山野裕子教師と岡村紀子教師に紹介いただきました。御言葉の種を播き、育てていくために尊い働きをなさっている両集会所を、祈りの中に覚えていきたいと思えます。

東日本大震災の支援活動は各教会、委員会のさまざまな活動を通して、献金が募られました。期間の長い支援を必要としている被災地、被災教会です。『揺れ動く地に立ちて、なお十字架は輝けり』(聖歌三九七)の歌詞の思いのように、力強い復興が一日も早くできるように、支援を続けていきましょう。

(三井田)

特集

婦人部だより

No.30

婦人部全体研修会報告

吉川教会 大熊 真弓

主題「アジアにおける婦人の

挑戦」

―バングラデシユの

キリスト者婦人の戦い―

講師 船戸 良隆先生(大月新

生教会牧師 アジア・

キリスト教教育主事理

事長)

七月四日、大宮教会にて、全

体研修会が開催されました。

参加者は、百二十九名でし

た。

船戸先生は、午前中の講演か

ら午後のスライドを使ったお

話を、ずーっと熱を込めて語っ

てくださいました。

『世界の富がどのように分布

しているのか?』その時、大宮

教会の礼拝堂の壁に映し出さ

れたカクテルグラスの陰のよ

うなスライドの映像が、今も頭

に浮かびます。それは、富が

年々お金を持っている一部の

人に集中している事を見て

表したものでした。カクテルグ

ラスのテーブルにつく部分は、

針のように細くて上へ向って

少しずつ太くなっていくので

す。そして、一番上が一番広く

なっていました。この傾向は、

年々顕著になっているという

のです。

もより婦人部研修会報告

安行教会 石井 わか

暖かな小春日和に恵まれた

十月二十三日(日)午後二時か

ら二十二人の姉妹たちと共に

第一ブロックもより婦人研修

会が安行教会で行われました。

講師は、田中かおる牧師。今

年度の主題に沿って副題を「礼

拝の喜び」とし、フィリピの信

徒への手紙四章二―七節によ

るメッセージをいただきました。

熱心に福音伝道をする二人

の婦人エポディアとシンテイ

ケを励ましたパウロの言葉は、

今なお私たちに勇気と励まし

を与えてくれます。キリストの

福音の確認は礼拝である。礼拝

こそが信徒の喜び、礼拝こそが

伝道である事。又、礼拝の順序

にも一つひとつ深い意味のあ

る事や、子どもと一緒に礼拝を

通して「礼拝共同体」の意味も

学ぶ良い機会でした。

分団協議も活発な話し合い

がなされ、少人数の参加でした

が、よき学びと交わりの時を持

て感謝いたします。

【第一ブロック】

暖かな小春日和に恵まれた

十月二十三日(日)午後二時か

ら二十二人の姉妹たちと共に

第一ブロックもより婦人研修

会が安行教会で行われました。

講師は、田中かおる牧師。今

年度の主題に沿って副題を「礼

拝の喜び」とし、フィリピの信

徒への手紙四章二―七節によ

るメッセージをいただきました。

熱心に福音伝道をする二人

の婦人エポディアとシンテイ

ケを励ましたパウロの言葉は、

今なお私たちに勇気と励まし

を与えてくれます。キリストの

福音の確認は礼拝である。礼拝

こそが信徒の喜び、礼拝こそが

伝道である事。又、礼拝の順序

にも一つひとつ深い意味のあ

る事や、子どもと一緒に礼拝を

通して「礼拝共同体」の意味も

学ぶ良い機会でした。

分団協議も活発な話し合い

がなされ、少人数の参加でした

が、よき学びと交わりの時を持

て感謝いたします。

和氣満々の婦人部

七里教会 滝川 英子

一昨年の夏の終り頃、七里教会に婦人部の次期委員を選出するよう連絡がありました。

九月の婦人会で決定した地区婦人部に連絡する事を約束していましたが、会長が七里の婦人会の実態から選出は困難と判断され、お断りされていたのです。私は、九十九歳の母の介護の只中にいました。その母が、婦人会が開催される三日前に亡くなりました。

日頃の母の口癖は、「私が英子の奉仕の時間を奪って申し訳ない」でした。婦人部の委員を引き受けなさいと、主が道を開いてくださり、これが母の心にも応えることであると折りうちのしめされました。

昨年二月、婦人部の拡大委員会に於いて次期委員が初顔合わせをし、役割を互選しました。以前、この互選に大変な時間がかかると聞いていました。殆ど初対面のメンバーが自己紹介後、突然潮さんが提案されたのです。

「私に決めさせてください。」と。判断基準を持たない私たちは、何故か頷いていました。「委員長は滝川さん、書記は大熊さん、会計は吉田さん、そして私は、委員になります。」五分もかからずに決定し、櫻井教区委員と地区からの結城委員(陪席)が加わり、新しい歩みが始まりました。

委員全員、職業婦人ですのりしながらの一年でしたが、委員会が楽しみ、癒されるという嬉しいう言葉に励まされ回を重ねてまいりました。

第一回の委員会は、未曾有の大震災の被災地である奥羽、東北教区を覚え災害対策基金を設置した上で一万円ずつ緊急支援金を送金いたしました。

二教区からは、困難の中、丁寧な礼状が届き恐縮したことでした。

「キリストに結ばれ共に喜び、苦しみにあずかる」この主題に心満たされつつ、主の導きによって仕えたく存じます。

(婦人部委員長)



【第二ブロック】

大宮教会 高田 理江

神様の御守りの内に、開会礼拝とグループ懇談の時を持ちました。礼拝では正田國磨呂牧師から、へりくだったイエス様に倣い、互いに愛し合うよう勧められました。

その後、一グループ六人の九グループに分かれて礼拝説教の感想や各婦人会の課題などを話し合い、祈りの時も持ちました。

日本は、謙遜を「美德」と捉える考え方をする人もいます。が、奉仕を断る場合の謙遜も度が過ぎると傲慢なものではないか、といったものもありました。

サンドイッチと果物をいただき、恵みに満ちた会となりました。

【第三ブロック】

越谷教会 関口 幸子

今年、シャロンのばら教会・高野台伝道所で八教会五十名の出席で開催された。

開会礼拝で鈴木牧師よりシャロンのばら教会の事、開催の為に相当な尽力があった事などを伺った。

主題講演では、北川辺伝道所の櫻井牧師よりフィリピの信

徒への手紙から東日本大震災などの被災者を覚えつつ、聖書からのモチベーション（動機づけ）が示された。また、パウロの挫折と苦悩を先生の経験を通して語られた。そして、「キリストと同じ思い」になり、「主において喜べ」と結ばれた。

午後のおき交わりにも感謝。

【第四ブロック】

埼玉中国語礼拝伝道所 小山 久美子

小春日和が続く十月二十九日（土）、第四ブロックもより婦人研修会が、七教会から四十五人が集い、上尾合同教会を会場にして開催した。

開会礼拝では、李秀雲牧師（埼玉中国語礼拝伝道所）が説教をされ、「婦人の働きは、教会にとって必要不可欠です」と語られ、「真珠よりはるかに貴い妻」（箴言三十一章十節）として「家庭や教会を輝かせることができる」とのお話が印象的でした。

講演は、佐野正子先生（聖学院大学政治経済学部准教授）でした。先生の話から、日々教鞭をとる中で、学生の目線に立ち、学生の悩み苦しみに寄り添っていらっしやる様子に先生の優

しさと愛を感じました。また「キリストに繋がって生き、キリストを心の内に住まわせ、キリストの愛に満たされて生きる喜びが、共に喜ぶ者となる」との話しに感銘を受けました。

そのような話の中で、学生たちとよく歌う賛美歌「あしあと」と「神の作品として生きる」の二曲をご紹介してください。全員で共に賛美することができ、とても素晴らしかったです。「あしあと」の詞は、イエス様の愛を更に深く知り、胸を打たれました。

埼玉中国語礼拝伝道所が、初めて担当教会としての役目を果たし研修会を無事に開催できました事を神様に感謝しています。

【第五ブロック】

武蔵豊岡教会 中松 聖美

秋日和の爽やかな季節の十月十四日（金）、八教会・伝道所の内六教会から四十二人が一堂に会し、栗原清牧師を通してフィリピの信徒への手紙第二章一〜八節のみ言葉に聴く事ができました。

私たちの内に神様（聖霊）が働いておられて、望むことも、望んだ事を行うことも神様の働きである。それ故に、イエ

ス・キリストが十字架の死に至るまで従順であったこと、その事に気づき従順（恐れおのきつつ）になる事を論じられた。

手作りの美味しい昼食を食べながら、各教会の様子や取り組み等、楽しい語らいの時が持たれた。

午後は「ソワーズ」のゴスペル賛美と証しを聞きました。両親の信仰者としての生き方を語りながら、何を見て、何を思ったかを素晴らしい調べに乗せて、高らかに歌い上げ、集まった兄弟姉妹の心を揺さぶり、恵みを共有しました。

【第六ブロック】

埼玉和光教会 椿 宏子

十月三日（月）五十一人の参加者を迎えて開催。講師は三浦修先生。

キリスト教の初期の歴史がパウロと呼ばれた一人の男によって作られたことが書簡に残されていることで証明されている。全身全霊でキリスト者として生きて、宣べ伝えた後半の生涯が、何と凄惨な事。

彼自身は、超エリートの家系に生まれたらしいが。信徒への手紙の内容が、欧米人の思想と言うか考え方の基

本となっているので、洋画の理解を深めることができ、個人としては、面白味も増し、視野を広めていける。聖書を知る事は、世界を知ることなのだろう。

【第七ブロック】

行田教会 川島 睦子

十月十五日、行田教会において開かれました。足元の悪い中二十四名が集まり、暖かな礼拝堂で開会礼拝を守りました。続いて講演に入りました。

講師の清水与志雄牧師（行田）は、体も声も丸いです。当教会員は、前日から準備もあり礼拝への気配りをしながら「キリストのために苦しむ恵み」の説教を聞いた事でした。他教会員からは、新鮮な想いで聴けましたと、感想をいただきました。

場所を変えて、隣接する幼稚園のホールで昼食と交わりの時が持たれました。心を込めた品々がテーブルに並んでいました。美味しいと評判の味噌汁は、皆様軽く二杯はいけたと思います。

和やかな交わりの中で教会紹介がありました。地域の数少ないクリスチャンが、大いに励まされた集まりでした。

アジア農林指導者養成学校研修生ホームステイ報告

☆ファトマタさんを迎えて

上尾合同教会 生貝 久子

この度、シエラレオネからファトマタさんを迎えて、言葉も通じぬまま家族一丸となつて共に過ごせた二泊三日のホームステイの機会を与えてくださった事、感謝していません。彼女が、シエラレオネから一週間の時間をかけて来日し、そしてアジア学院で学んだことと全てを自国の為に役立てようという志を聞き、立派だと思いました。

そして何よりもそれを支え、学びの場を与えるアジア学院の皆様の働きにも触れ、これら全ては、神様の御手のなかにあり、世界がひとつに繋がっているのだと深く知る事ができました。短い時間でしたが、とても良い感銘を与えられました。感謝しています。



☆ARRIのお客さんを迎えて

東大宮教会 藤岡レベッカ

今回はじめてホストファミリーを引き受け、タイのケスリン・ファイブーンさんとミヤンマーのメイ・ス・ウインさんの二人の研修生を迎えました。

お二人は、優れた有機農法と環境維持を共通のビジョンとして持ち、このビジョンを達成する強い目的を持って来日し、日本での研修のプログラムを大変喜んでいる事がわかりました。彼らが日本で得られる豊かな経験と同じように、私たちも彼らのビジョンや熱心な仕事振りから多くの事を学ぶこ

とができるのではないのでしょうか。

また、私は、土曜日の午後の婦人会連合世界教会運動委員会主催の歓迎会で発題した研修生のアタバさん(カメルーン)とケスリンさん(タイ)の小論文を読みましたが、その課題は「本当の豊かさとはなんですか?」でした。それはまた平和と幸福の追求という課題でもあると思いますが、この二人の発題は、「人々の互いの絆、そして人と自然環境との絆が、良い関係であるような社会においてこそ、本当の豊かさを見出してゆくことができるのではないか、豊かさの価値の基準を変える必要があるのではないか」という内容でした。私は、とても興味深く読みました。



さて、私たちは、ケスリンさんとメイさんを迎えての二泊三日は、とても楽しい時間を過ごしました。アメリカ人の私の目から見て、日本の畳の簡素で機能的な佇まいは、大変美しく、魅力的でロマンチックに思

いますが、アジアの人にとつては、それ程に感じないかもしれないし、私たちの持つ成しは、食事、お風呂、ビデオ鑑賞(マルチン・ルターの話)という大変簡単なものでした。そのような私たちの持つ成し方でしたけれども、私たちが楽しんでくれているように、彼らも楽しんでくれた事を願っています。

最後に、このようなプログラムを企画し実行し、そして二人の研修生をご紹介してくださった関係者の皆様に感謝しています。

☆「アルンさん」を迎えて

所沢みくに教会 最上久美子

六月五日(日)、所沢みくに教会にスリランカからの研修生アルンさんが来られました。

この日は、例年より一週間早い「子どもの日・花の日礼拝」だったため、子どもたちと共に礼拝を守り、愛餐会も一緒にし

ました。そして、午後には、お花を持って消防署訪問をアルンさんと一緒にしました。またその後、子ども三人、大人三人で川越の「喜多院」や「時の鐘」を見に行き、公園で遊びまし



夕方からホームステイ先の高崎和子さん宅でバーベキューパーティーをし、アルンさんとの交流の時を持ちました。大人と子ども合わせて十八人が集いました。

アルンさんからスリランカの国の事をいろいろ教えていただきました。CSスタッフは、スリランカの教育制度などについて興味深く聞いていました。楽しい時をありがとう!